

家畜衛生だより 令和2年12月号

紀北家畜保健衛生所

電話 073-462-0500

紀南家畜保健衛生所

電話 0739-47-0974

紀南家畜保健衛生所 東牟婁支所

電話 0735-58-1481

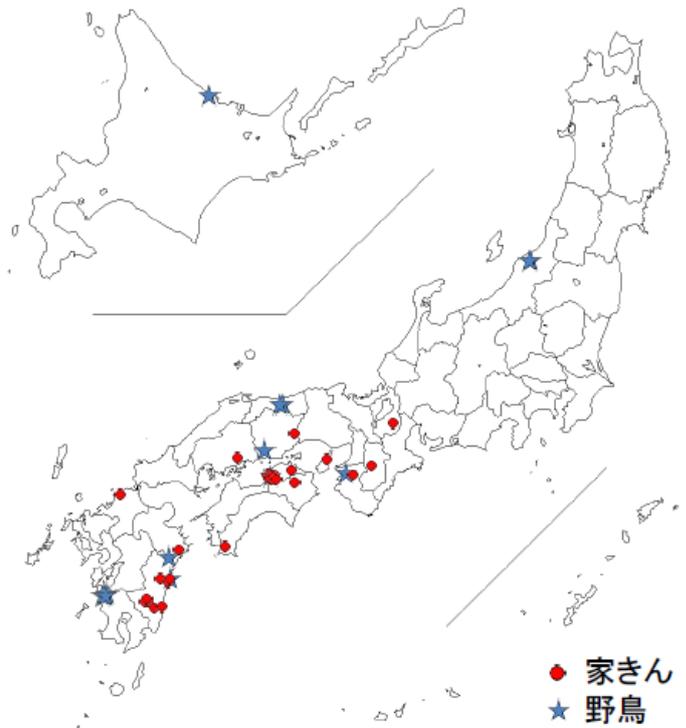
国内で高病原性鳥インフルエンザが続発しています

令和2年11月5日香川県三豊市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生し、12月21日現在で12県30農場、関連農場も含め過去最多の300万羽を超える殺処分、防疫措置が行われています。本県でも12月10日に発生（H5N8亜型）があり、13日に防疫措置を完了しています。野鳥においても8道県19事例が報告されており、本県でも12月3日に和歌山市でオシドリからウイルス（H5N8亜型）が分離されています。農場の皆様には、今一度飼養衛生管理基準を見直し、防疫の徹底をお願いします。

令和2年度 国内における高病原性鳥インフルエンザ発生状況 (令和2年12月21日時点)

家きん 12県30事例(H5N8*) *亜型検査中事例なし

事例	発生場所 (疑似患畜判定日)	飼養状況 (万羽)	事例	発生場所 (疑似患畜判定日)	飼養状況 (万羽)
1	香川県三豊市(11/5)	採卵鶏約31.7	26	宮崎県日向市(12/14)	肉用鶏約4.6
2	香川県東かがわ市(11/8)	採卵鶏約4.6	26関連	宮崎県川南町(12/14)	肉用鶏約2 (食鳥処理場)
3	香川県三豊市(11/11)	肉用種鶏約1.1	27	高知県宿毛市(12/16)	採卵鶏約2.7
4	香川県三豊市(11/13)	肉用種鶏約1	28	香川県三豊市(12/16)	肉用鶏約1.4
5	香川県三豊市(11/15)	採卵鶏約7.7	28関連	香川県三豊市(12/16)	肉用鶏約1.5
6	香川県三豊市(11/20)	採卵鶏約15.4	29	徳島県阿波市(12/19)	採卵鶏約0.8
6関連	香川県三豊市(11/20)	採卵鶏約11.7	30	宮崎県宮崎市(12/19)	肉用種鶏約3.4
6関連	香川県三豊市(11/20)	採卵鶏約2			
6関連	香川県三豊市(11/20)	肉用鶏約5.7			
6関連	香川県三豊市(11/20)	肉用鶏約1.7			
7	香川県三豊市(11/20)	採卵鶏約43.9			
8	香川県三豊市(11/21)	採卵鶏約7.5			
9	福岡県宗像市(11/25)	肉用鶏約9.2			
10	兵庫県淡路市(11/25)	採卵鶏約14.5			
11	宮崎県日向市(12/1)	肉用鶏約4.0			
12	宮崎県都農町(12/2)	肉用鶏約3.0			
13	香川県三豊市(12/2)	採卵鶏約22.5			
13関連	香川県三豊市(12/2)	採卵鶏約12.3			
14	香川県三豊市(12/2)	採卵鶏約1.9			
15	宮崎県都城(12/3)	肉用鶏約3.4			
16	奈良県五條市(12/6)	採卵鶏約7.7			
17	広島県三原市(12/7)	採卵鶏約8.5			
17関連	広島県三原市(12/7)	採卵鶏約5.2			
18	宮崎県都城(12/7)	肉用鶏約5.9			
19	宮崎県小林市(12/8)	肉用鶏約4.3			
20	大分県佐伯市(12/10)	肉用鶏約1.4			
20関連	大分県佐伯市(12/10)	肉用鶏約2.4			
20関連	大分県佐伯市(12/10)	肉用鶏約1.8			
21	和歌山県紀の川市(12/10)	採卵鶏約6.8			
22	岡山県美作市(12/11)	育雛約52.7			
22関連	岡山県美作市(12/11)	育雛約11.8			
23	滋賀県東近江市(12/13)	採卵鶏約1.0			
24	宮崎県宮崎市(12/14)	採卵鶏約7			
24関連	宮崎県宮崎市(12/14)	採卵鶏約4.5			
24関連	宮崎県宮崎市(12/14)	採卵鶏約1.1			
25	香川県三豊市(12/14)	採卵種鶏約2.8			



野鳥 8道県19事例(H5N8)、1県2事例(検査中) ・月日は検体回収日(同月日重複は別事例)

北海道紋別市糞便(10/24)、鹿児島県出水市環境試料(水)(11/9,16,23,30,12/7,7,14,14)・糞便(11/5)、新潟県阿賀野市環境試料(水)(11/16)・糞便(11/16)、和歌山県和歌山市死亡野鳥(12/3)、岡山県矢掛町死亡野鳥(12/4)、宮崎県延岡市糞便(11/30)・都農町糞便(11/30)、香川県三豊市死亡野鳥(12/8)、鳥取県鳥取市糞便(12/7)・環境資料(水)(12/9)、鹿児島県出水市死亡野鳥(12/18,18 検査中)

農林水産省 HP より抜粋

消毒薬について

11月27日より緊急消毒を行うため、県内100羽以上飼養の養鶏農家の皆様に消石灰の配布を行いました。また、本県での高病原性鳥インフルエンザ発生に伴い、12月21日より再度消石灰の配布を行います。消毒については消毒薬の性質を理解し、最大限の効果が発揮できるように使用してください。

一般的な消毒剤

- 消毒剤は混ぜずに使用しましょう。
pHが消毒剤の効果に大きく影響したり、ガス発生の危険などもありますので他の消毒剤は混ぜない。
- 糞などの有機物を除去しましょう。
有機物により消毒効果が下がるので、長靴の糞は落とし、踏込み消毒槽は汚れる前に交換。
- 低温下で効果が減少します。
消毒剤によっては低温下では効果が下がるため、冬場は使用説明書の希釈濃度の最高濃度で使用。

消石灰

- 水分がないと効果が減少します。
水分と混ざりアルカリ性となり消毒効果を発揮するため、踏込消毒槽として利用する場合は、長靴を濡らすなど対応。
- 十分な量を散布しましょう。
畜舎周囲の散布の場合は1m²あたり0.5から1kgを散布し、消毒効果を保つため1週間ごとに散布。(目安)
- 他の消毒薬との相性を考えましょう。
踏込消毒槽通過後に消石灰散布場所を歩くときは、アルカリ性でも効果が低下しない逆性石鹼などを利用。

気になることや不明な点がありましたら、
所轄の家畜保健衛生所にお問い合わせください。